

FAIRYTAIL~if物語~

ぐつとさん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

主人公の名前はフレイア

8年前ギルドマスターのマカロフにぼろぼろの状態で見殺され命を助けられ、そしてそのままFAIRYTAILに入る。

オリ主フレイア

時&波動の滅竜魔道士

目次

出会い

第1話

1

出会い 第1話

フレリア「あー、まだかなー」

マリー「フレが選んだ仕事でしょ！ナツやハッピーもいるんだからそんなこといわないの！」

ナツ「……………まだつかねえのか……………ウウ」

ハッピー「ナツは相変わらず乗り物に弱いよねw」

ナツ「うるせえよ……………ウツプ」

俺たちは今馬車に乗って仕事に向かっている。

仕事内容はほかのギルドのやつと協力して危険なモンスターを倒すという内容だ。おれがこの仕事を選んだ理由はほかのギルドと協力してやる依頼なんてはじめてみたからだ！今となっては、少し受けたことを後悔している。

ハッピー「あつ！街がみえてきたよ！もうすぐだよ！」

フレリア「おつ！本当だ、ナツ良かったな！」

ナツ「……………アイ」

そうしてる間に街についた。ほかのギルドとの集合時間より早く来れてよかったわ。そんなことを考えてると一人の女の子がしゃべりかけてきた。

??「あ、あのもしかしてFAIRYTAILの方ですか？」

フレリア「ん？そうだが君はだれだ？」

ウエンディ「あ、すみません申し遅れました、化猫の宿のウエンディと申します。」

フレリア「ウエンディ？どつかで……………」

ナツ「ウエンディ……………よろしくな！ウエンディ！おれはFAIRYTAILのナツだ、こいつはフレリア」

ナツもウエンディと言う名前に聞き覚えがあるようだ、どうやら思い出せなかったらしいけどナツとはじめてあった時と同様になぜか

ウエンデイとはじめてあった気がしないんだよな。

ウエンデイ「ナツさん宜しくお願いします！フレリアさんもよろしくです！」

とウエンデイはお辞儀をする。

ハッピー「ちよつと、ナツー！オイラ達のこととも紹介もしてよ！オイラはハッピーっていうんだ！よろしくね、ウエンデイ！」

マリー「ワタシはマリーと申します、宜しくお願いします、ウエンデイさん」

と2匹の猫が自己紹介するとウエンデイが驚いてた。

ウエンデイ「わあ！シャルルに似てるなー、こちらこそよろしくねハッピーとマリー！」

フレリア「へえ、ハッピーとマリーに似てる奴がいるのか、ウエンデイその猫はどこにいるんだ？」

ウエンデイ「ははは……本当は一緒にくる予定だったんですけど熱が出てしまいましたわたくし一人なんです。」

フレリア「なるほどなー、とりあえずお互いの魔法何使うか確認して連携を取れるようにしよう、おれは時と波動の滅竜魔導士だ。波動の攻撃を得意としている」

ナツ「おれは炎の滅竜魔導士だあー!!」

ウエンデイ「わ、わたし天空の滅竜魔導士です。サポートの魔法いっぱい使えます」

ハッピー「ええー！全員が滅竜魔導士なのー!?!」

マリー「おどろきですね!!」

フレリア「まさか滅竜魔導士とはな、この仕事案外簡単かもしれない、とりあえず作戦はおれとナツが敵と戦うからウエンデイはおれとナツのサポート、ハッピーとマリーはウエンデイを守れ、これでいこう。とりあえず依頼主のところにいこう。」

ハッピー&マリー「あいさー!。(了解です!)」

ウエンデイ「はい!!」

ナツ「燃えてきたぞ！」

そしておれたちは依頼主の家に向かう